

# 「早く気づけていれば」

いちき 串木野市立羽島中学校三年 橋野はしの 太志たいし

僕の父は三月二十日に癌で亡くなりました。に見守られながら息を引き取りました。僕は僕は中学二年、妹は小学四年でした、父は二年前に発症しましたが、僕と妹は癌だとは聞いていませんでした。糖尿病も持っていたので、それで入退院を繰り返しているとずっと思っていました。一週間ぐらいの短い入院がどんどん長くなり、長いときは一か月ほどになりました。コロナのために会うこともできません。そして、入院する度に父はやせ細って帰ってきました。やせて帰ってくる父を見ると心配だけが増えていきます。そして二月半ば、退院した父から僕と妹はリビングに呼ばれました。父と母。そして暗い顔で並んだ中で父が口を開きました。

「俺は癌だったんだ。二年前にそれがわかったけど、お前たちに教えなかったのは、ぎりぎりまで言いたくなかったんだ。もう入院はしない。家にいるよ。」

それを聞いて、僕と妹は涙が止まりませんでした。そして入院が長い理由が「癌」だったということがわかりました。父は歩くことが難しくなりベッド生活になりました。訪問看護を受け、母は仕事をずっと休み父の世話をしました。自分も一日だけ学校を休んで、父の世話をしましたが、父がコロナにかかるといけないので、接触することも控えました。

三月十九日父親の体調がとても悪くなり、土曜日だったので僕たち兄妹もみんな近くで見守りました。翌日、父は自分の兄弟と家族

に見守られながら息を引き取りました。僕は目の当たりにしたけれど信じられませんでした。悲しい感情で心が埋まっていました。その時、叔父がこんなことを言ってくれました。「体調がこんな悪くなってたから、楽になつてよかったと思うよ。」

僕はそれで少し気持ちが楽になりました。葬式にはコロナ禍だったけれど、たくさんの方が父のために来てくださり、父はたくさんの人に縁があったんだなあと知りました。父は会話ができる最後の頃、僕と妹にこんなことを言いました。

「お母さんのことたくさん助けるんだよ。三人で頑張るんだよ。」

父が亡くなって三か月が経ちました。振り返ると、もっと早く癌だと気づけていたら、糖尿病も防げていたらと後悔しています。僕たちのために忙しく働いてばかりで、健康診断にも行っていなかったのでしょうか。家族は、一人でも欠けたらこれまでと同じ生活をすることはできません。人の命は何よりも大事ということです。癌も早期発見、早期治療を行えば怖い病気ではないと父が亡くなる前から知りました。時間を戻して、父に健康が一番大事だよと言いたいのですがそれもできません。せめて母にはしっかりと健診を受けてもらい、父の分まで長生きしてほしいと思っています。そして、三人で元気に健康で頑張る姿を、父には見守ってもらいます。